

# 月刊反トマホーク通信

No. 12

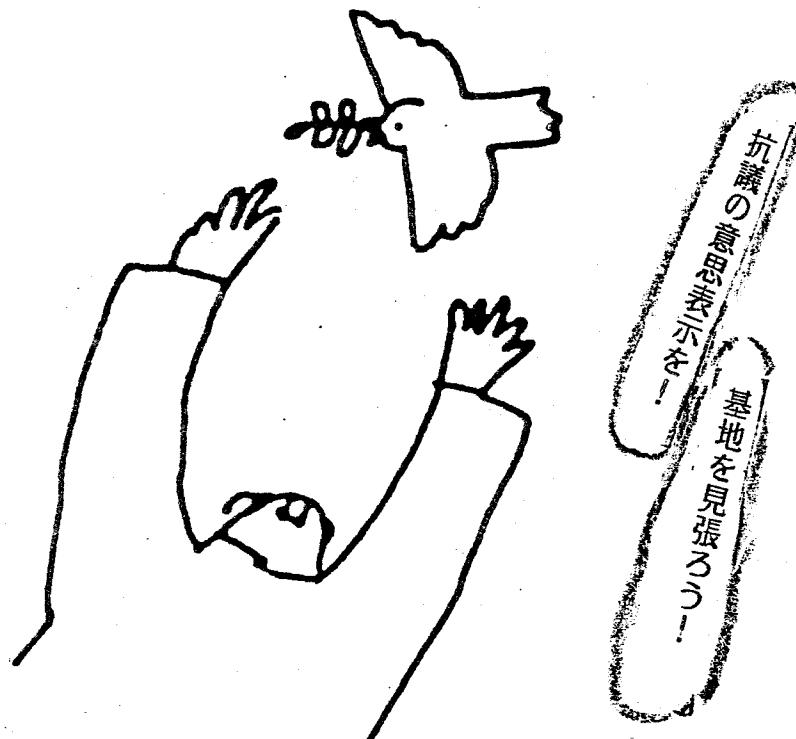
86. 10. 20

東京都渋谷区渋谷2-5-9 パル青山502 トマ喰い虫社 ☎ 03(498)6095

## 「日米二軍統合演習」

10. 27 ~ 11. 1

### 反対の声を上げよう！



奇妙というのか、「やはり」「どちら」など、いつべきものか。レイキャビクでの米ソ首脳会談で最後まで話題にすりひがつなかつたことがあつて、それは、海洋射撃巡航ミサイル（トマホーク）。四十発を実戦配備計画はないがなる軍備管理の制約も受けず、「ルバチョフの「沈黙」」は「我々もやるぞ」との意味表示なの。

陸上では一定の「管理」、海洋では野放図な海軍拡張争。これが彼等の「暗黙の合意」だ。  
核軍備廃棄への可能性は一たとえ部分的なものであれ、「下から」の強制力」の内にしかない。  
その力を太平洋の片隅のこの国にじっかりと根付かせるために私たちは進みます。貴方ど。(た)

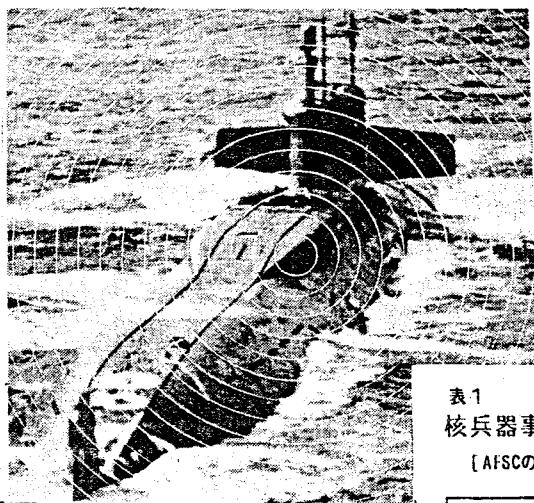
### トマホークの配備を許さない！ 全国運動

●維持会員（月間会費）  
団体 1口 2000円  
個人 1口 1000円

●参加会員（月間会費）  
団体 1口 1000円  
個人 1口 500円

●通信会員  
年間 2000円

あなたも仲間に！



# ~~原書~~—原子炉と核兵器の死のコンビネーション

表1  
核兵器事故の発生数（1965-77）  
[AFSCの請求により公表された米海軍資料から]

年	1965	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77
重大な事故	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
やや重大な事故											6	3	2
軽微な事故	36	31	21	27	36	26	37	41	33	13	15	19	25
その他											6	1	1
計	37	31	21	27	36	26	37	41	33	19	24	22	27

表2  
海軍の兵器システムによる事故発生数  
(通常兵器を含む 出典は表1に同じ)

年	空中発射型	水上発射型	水中発射型	計
1965	17	11	6	34
66	15	7	2	24
67	4	12	5	21
68	10	11	5	26
69	13	12	7	32
70	7	12	7	26
71	16	14	8	38
72	17	16	9	42
73	14	16	2	32
74	7	6	2	15
75	8	9	1	18
76	12	5	4	21
77	6	9	2	17
計	146	140	60	346

一九六四年、アメリカの原子力潜水艦シードラゴンが佐世保に入港して以来、原潜奇港問題は日米安保条約にもとづく軍艦奇港問題の原点であった。そして、チエルノブイリ原発事故、ソ連のヤンキー型原潜事故、アメリカの海軍核兵器事故の暴露という今年になつて発生した一連の事件によつて、この問題は全く新しい様相を示すことになつた。アメリカの新海洋戦略の下に西太平洋の緊張が高まるとともに、この問題はアジア・太平洋と共に

●「東京に原発を」という逆説的コピーがあるが、じつは一日に一日は東京湾に原発がある。横須賀に入港する原子力潜水艦の原子炉がそれである。原潜の原子炉の熱出力については正確なデータが入手できない。しかし、ほぼ十万キロワットと考えられる。これは通常の日本の発電炉の10分の1、 Chernobyl 原発の30分の1である。横須賀に寄港中も炉は運転を継続していることが多いと考えら

非核の実質化へ去へ  
全ての基地撤去へ  
一步を踏み出す  
の第三回  
全国会議  
七八八・大阪  
横須賀な  
トマホー  
場にはナ  
ージャー  
八月の  
る。討論

# ともに歩もう！

## 第八回 全国会議から

あらためて「日本の非核の実質化へ力強い一步を踏出そう」と訴えた宣言から一年。その第三次キャンペーン以後を論議する第八回全国会議（京都・部落解放センター、九月二七～八日、参加は京都・熊本・佐世保・福岡・大阪・尼崎・舞鶴・大津・名古屋・東京・横須賀などから三五人）が開かれた。

力擴大、自治体との新たな関係と攻防、マスト・メディアとの協力関係、六・二九コモンデイトにみられる草の根への広がりの兆し、新しい反基地運動の誕生、国際共同闘争の前進などを上げている。ただ、可能性と同時に課題をかかえているのも事実。

われわれの当面する運動方針は①非核の実質化、とりわけ核艦船拒否の実現 ②反基地運動の活性化であると提案された。討論の中で①については講演（日米軍事協力と西太平洋の核軍事体制）にかけつけてくれた海軍新さんの助言で「指揮・通信基地の撤去を目指す」が追加された。②については、「この秋

がら、第三次キャンベーン以後も運動を継続することを確認。運動の名称と組織体制も現状を継承することも確認。さらに、具体的活動方針を次のように確認した。  
①秋の日米三軍統合演習反対行動や基地監視に取組む  
②チームスピリット87反対行動を準備する  
③来年五月末の「海の軍備撤廃のための国際共同行動に取組む  
④非核自治体への働きかけを強める  
⑤日本の基地をアジア太平洋民衆の置かれている新しい状況から取られかえす  
作業。

たのに賛成」の意見が問題となり始め  
った。メリルの入港した吳からは「負けは負  
けたが、そこから運動をどう根付かせるかが  
田さんも「非核の実質化をかけてたたかっ  
てきました。そして大敗北だからだめ、では  
ない。座り込みをしていて市民の不安、怒り  
を実感した。その声をどうつないでいかが  
問われている」という。  
どうつないでいくのか一さじ加減は難しい  
が「すこし楽観的に」考えてみればわれわれ  
は多くの可能性を手にしているといえる。現  
状報告と提案に立った梅林さんは、第三次主  
yanペーんの成果として、国会論争での影響

「イドライン安保がどこまできてるかの客観的認識が反核運動には弱い」（京都）などの討論から、安保の現段階をしめす軍事演習―軍事体制の暴露とそれへのたたかいというところから「日米韓共同軍事体制に抵抗し、それを破るために活動に取組む」に集約。しかし、討論では①ほどの具体性ではなく、新鮮さがないとの意見も出された。」この点は「いまなぜ反安保なのかを、自分の言葉で多くの人々が語りだす共通の体験をいまぐるうとしている」（梅林）ということではないか。

二日間の討論は、すこし整理されない点もあり今後に反省点を残しながらも、結論とし

(4) れる。寄港期間が一日程度の場合は炉を切らないだろう。横須賀市民の枕もとでこの原子炉が動いているのである。

●すべての軍艦事故は核兵器の事故につながる。核兵器事故の可能性が現実性をおびて来たいま、非核コード（核の有無の判断基準）なしには、住民の安全に対する基準すら立たない。

A F S C C (アメリカン・フレンド・サービ

ス・コミッティ)が五年にわたる情報公開

法にもとづく裁判で入手した資料によれば、海軍の核兵器に関連する事故は六三〇件ほつた。一年に三〇件の割合である。そのうち二件は深刻な事故、他は軽微な事故とされているが、軽微なもの例外として上げられ

ているのは、たとえば模擬爆弾を空母の艦載機から甲板に落下させたような事故で、これもぞっとするようなものである。

●事故がおきてからの防災対策は立てようがない。原潜の寄港を拒否し、非核コードにもとづいて核疑惑艦船の寄港そのものを拒否する以外に、核から私たち自身を守術がないことが、あらためて明らかになったのである

(梅林宏道)

## 28隻の原子力艦船 が寄港

(十月一五日現在)

今年に入つてから日本に寄港した原子力推進艦船はのべ28隻。ニュージャージーの随伴艦でトマホークを搭載したロングビーチをのぞいてすべて攻撃型原子力潜水艦である。そのうち14がトマホーク艦のロサンゼルス級とスタージョン級。これは日本列島の核攻撃基地化を物語ると同時に安全性審査の全く及ばない稼働中の原子炉がのべ百五十日間設置されていたことを意味するのである。(資料提供 非核市民監視運動のコスカ)

SSN:攻撃型原潜 CGN:原子力ミサイル巡洋艦  
ロス:ロサンゼルス級 スタ:スタージョン級  
スレ:スレッシャー級 イー:イーサン・アレン級

### 横須賀

艦番号	艦名	滞在期間と日数	型
1 SSN698	ブレマートン	1/ 5~1/13	ロス
2 594	パーミット	1/14~1/24	スレス
3 697	インディアナボリス	1/23~2/ 3	スレ
4 595	ブランジャー	2/17~2/25	スレス
5 647	ボギー	3/ 4~3/ 6	スロ
6 594	パーミット	3/ 5~3/ 7	スロ
7 595	ブランジャー	3/12~3/17	スロ
8 698	ブレマートン	3/16~3/17	スレス
9 613	フラッシュナー	3/29~4/ 9	スロ
10 697	インディアナボリス	4/26~5/ 2	スレス
11 682	タニー	5/15~5/17	スロ
12 698	ブレマートン	5/16~5/17	スロ
13 595	ブランジャー	5/24~5/26	スロ
14 603	ボラック	6/29~7/ 4	スロ
15 701	ラホヤ	7/25~7/29	スロ
16 701	ラホヤ	7/30~	スロ
17 701	サム・ヒューストン	8/14~	スロ
18 609	ロングビーチ	8/20~8/25	スロ
19 CGN 9	タニー	8/24~9/ 2	スロ
20 SSN682	ボラック	9/29~9/30	スロ
21 603	—	10/ 1~10/ 4	スロ

●のべ入港数  
(内訳) 原潜 21(116)  
20(106)  
ロス級 8(39)  
スレス級 3(8)  
スレ級 8(53)  
イー級 1(6)

( )内は滞在日数

### 佐世保

艦番号	艦名	滞在期間と日数	型
1 SSN698	ブレマートン	3/ 1~3/ 4	ロス
2 595	ブランジャー	3/ 6~3/ 9	スレス
3 682	タニー	7/10~7/14	スレス
4 603	ボラック	8/27~9/ 8	スレス
5 603	ボラック	9/18~9/19	スレス
6 711	サンフランシスコ	10/ 4~10/ 8	ロス

### ホワイト・ビーチ(沖縄)

1 SSN682	タニー	8/19	1 スタ
----------	-----	------	------

(5) 皮肉なことに米ソ首脳会談のニュースにかけ消された格好になつたが、米ソ対決の最前线、北海道に日米三軍統合実動演習(米軍呼称「キーン・エッジ(鋭利な刃)」'87)に参加する米陸軍部隊が到着した。この10月27日から行われる演習は、三軍を同時に動かす初めての訓練であり、内容的に自衛隊の演習としてはこれまで最も重要なものである。また、在韓米空軍も初めて参加し、日米韓統合演習への道が開かれる。これによって日米共同訓練は最大のハードルを越え、今までの「予行演習」段階から「チームスピリット(米韓合同演習)」型の実戦演習へと「脱皮」し全く新たな段階に入る。

#### ●「キーン・エッジ」がやがた

一般には意外に受止められるかもしないが、この日米共同演習は全く80年代的な出来

事なのである。60年に結ばれた日米安保条約は「有事」の際日米両軍がどう連携するかについて具体的に触れておらず、両軍の合同演習も78年まで、海での小規模なものを除いては「おこなわれたことはなかった。それが78年11月に「日米防衛協力のための指針(ガイドライン)」(以下「指針」と略)なる一片の文書が閣議了承されて以来、せきを切ったように陸・海・空での日米共同演習が行われるようになったのである。この「指針」は安全保障協議委員会の下部機構の報告書という形をとつており、国会での討論すら経ていない。

しかしこの文書はその中で①具体的な戦争計画である日米共同作戦計画へ「日米共同作戦」、「シーレーン防衛研究」、「極東有事研究」の三つ)の策定②それを実行に移すための「必要な共同演習及び共同訓練を適時実施する」と③戦時の際の補給、輸送など

の「後方支援活動」を要求しており、紛れもなく安保条約の実質改訂を意味していた。

①の戦争計画については前の二つについてほぼ完成、②の共同演習は今回の三軍統合実動演習が究極の形態である。③の実施にはいわゆる「有事法制」の制定が必要だが、すでに関係法令のリストアップが有事法制研究の第二分類として発表されている(84年10月防衛報告)。このように見てくると「指針」による戦争体制はこれまでのところ、さしたる抵抗にも合わずに一応の「完成」—米軍にとってはまだまだ「改善」の余地があるが一を見つつあると考えるべきだろう。

(バーバー)



## 何にむけた「鋭利な刃」か?

青木雅彦(トマホーク阻止京都連絡会)  
キン・エッジ

正義の連鎖を斬る

● 海軍や「戦略的観点」  
米核戦略への協力

すべて戦争計画にはシナリオが必要であり、その前提には一国の軍事戦略が存在する。そして日米共同作戦を規定するのはアメリカの現在の軍事戦略（ソ連を相手にする場合は当然「核戦略」になる）であることは言うまでもない。

今年の6月米国務省のソロモン政策企画局長が、欧州で戦争が起これば極東でソ連に対する意図的に戦端を開く、いわゆる「極東第二戦線論」をぶちあげたが、これはすでに83年度米国防報告で明らかにされたソ連の弱点へと戦争をエスカレートさせる「水平エスカレーション戦略」そのものであり、米軍が軍事的にいかにこの地域を重視しているかを示している。

そもそも「指針」の制定は、ソ連がテルタ級弾道ミサイル原潜（米本土を狙う）をオホーツク海に展開したのと時を同じくしており、「指針」は自衛隊が米核戦略の一翼を担当することを暗黙に要求している。米空母やF-16などの核戦力を自衛隊が護衛する訓練はすでに実施されており、核トマホーク艦をソ連原潜から守ることもやがて行われるだろう。

米軍の戦略は本質的にグローバルなもので

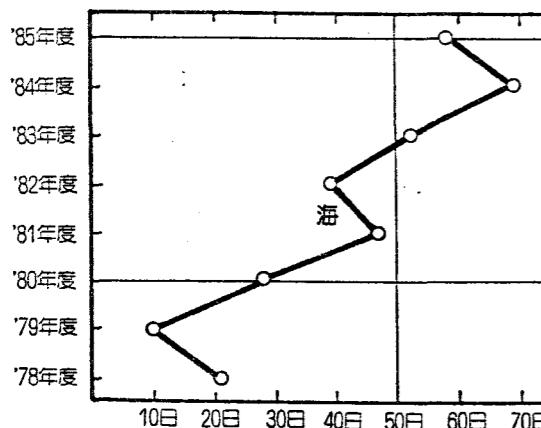
あり、この日米共同演習も米核戦略の世界地圖の中に置いて初めてその意味が解かるものである。私たちが演習を批判する視点もこれまでの一国的な観点ではなく、国際的な文脈でなければならない。

● 海軍や「戦略的観点」  
米核戦略への協力

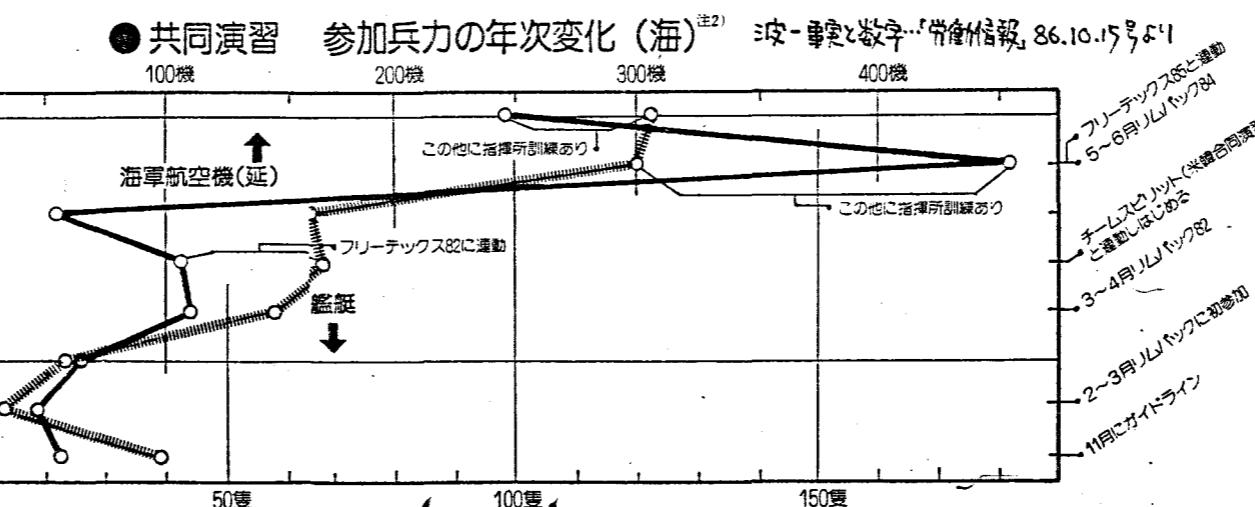
「極東第二戦線論」は、欧州で戦争が起らなければ極東は安全であることを保証するものではない。それどころか、欧州と違いかなる軍艦のテーブルも存在しないこの地域は、日米韓、ソ連の無制限な軍拡競争の場となつており、米ソ首脳会談決裂後、核対決の最前線として増すます危険な地（海域）になろうとしている。

したがって米軍としては今回の演習をテコにさらなる一步を踏み出そうとするだろう。それは新たな基地の提供（三宅島のように）や、NATOや韓国で行かれているような演習場以外の土地をも強襲上陸演習などで使用させることも要求してくるだろう。無論これは日本国民にたいする挑戦であるが、実は日米共同演習自体が反戦世論に対する示威行為なのだ。三軍統合演習の後、11月下旬から陸自と海兵隊の演習が行われるが、これまで北海道・東北に限定されていた演習場を一転させて滋賀県のあいは野に移したのは、既成事實の「全国巡業」の始まりとして非常に政治的な策動といえる。

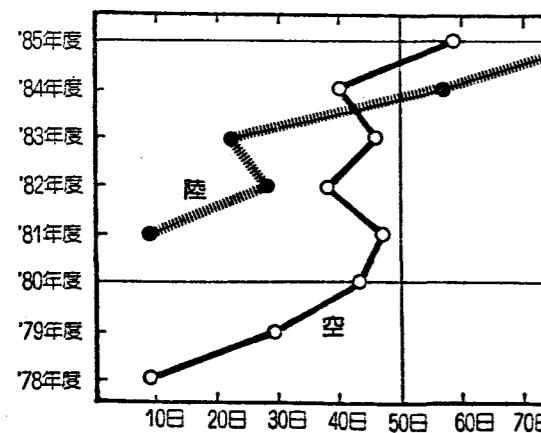
● 共同演習日数の年次変化（海）<sup>(注1)</sup>



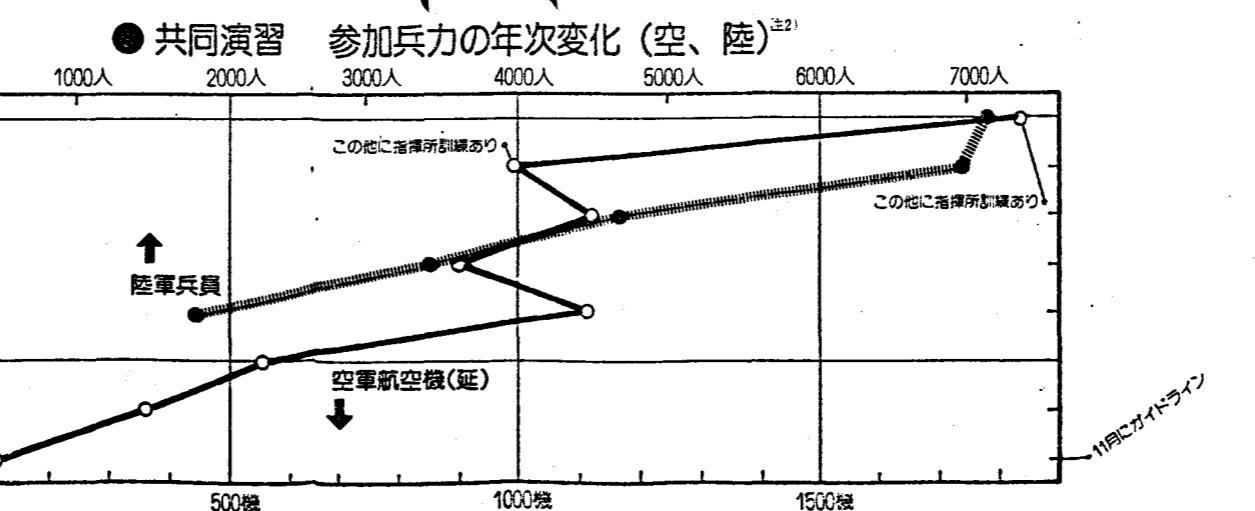
● 共同演習 参加兵力の年次変化（海）<sup>(注2)</sup>



● 共同演習日数の年次変化（空、陸）<sup>(注1)</sup>



● 共同演習 参加兵力の年次変化（空、陸）<sup>(注2)</sup>



78.11.27 「日米防衛協力指針」決まる。空で初の日米共同訓練（三沢、～12.1）

80.2.26 空自「リムパック」に初参加。（～3.18）

81.10.1 陸で初の日米共同訓練（通信訓練 東富士、～10.3）

82.2.15 陸で初の日米指揮所訓練（「ヤマサクラ」滝ヶ原、～2.19）

11.10 陸で初の日米実動演習（滝ヶ原、東富士、～11.19）

83.12.12 空で初の日米指揮所訓練（府中、～12.15）

84.6.11 海で初の日米指揮所訓練（横須賀、～6.15）

11.21 「日米共同作戦計画」まとまり、首相報告

86.2.24 初の日米統合指揮所演習（～2.28）

10.27 初の日米三軍統合演習

11 「シーレーン防衛研究」まとまる

# US Warships Complete Cruise Off Soviet Coast

WASHINGTON (AP) — Four U.S. Navy warships led by the battleship New Jersey completed a "show-the-flag" mission off the Soviet coast on Monday that featured a deep incursion into the Sea of Okhotsk north of Japan, officials said.

The deployment of the New Jersey, two cruisers and a destroyer into the area began on Sept. 26 and ended Monday with the four ships steaming through the Kuril Island chain back into the Pacific, the Pentagon acknowledged.

Officials of the administration of President Ronald Reagan, who requested anonymity, said Monday the deployment was not announced in advance because the United States was unsure how the Soviets would react. Any advance publicity could have been considered provocative by the Soviets, the sources said.

Although the ships remained in international waters, the Soviets consider the Sea of Okhotsk, bordered on three sides by Soviet territory, as "their play pond," said one source.

As it turned out, the Soviet response to the ships' presence consisted only of occasional visits by reconnaissance planes and the shadowing of the U.S. vessels by a single Russian intelligence ship, the sources added.

↑  
この3つは同じ  
APで同じ結果にな  
↓ 解説してみたら?

要取路遮断であるうえ、クヌグの水をシラカシ海へ突いて、  
「十九日は回船海」の航船を終えたのである。したが  
て米政府は即ちに、本艦船は、さう艦橋が  
どうの反応をするかと測定するため、また米艦の外見の  
船体等の米軍艦艇が緊密な監視を行つた時刻など、前記と公  
れなる。  
N. 86.  
%

五、本のストを示威して、その者たるに對する威嚇の如きは、日本政府の立場からいへば、實質上は日本政府の威嚇である。したがつて、日本政府は、この威嚇の實質上は、日本政府の威嚇である。したがつて、日本政府は、この威嚇の實質上は、日本政府の威嚇である。

19 朝、韓國に  
参った。二  
月十四日  
韓國の韓國使  
館にて同  
あるもの

卷之三

## ニュージャージーのその後

# ■ 横原質か心 「NICHIBU」のシナリオ 想以上には進んで そう。やうつた 「代替」でも

86.10.17  
(A)

## 日米統合演習のシナリオ

# 米統合演習のシナリオ 石狩平野で「迎撃」

しかし「キーン・エッジ」から始まる次なる一步はまた彼等にとっても危険な一步である。かのソロモン局長も認めているように、「水平エスカレーション」はアメリカのために同盟国を最も危険な戦争に巻込むものであり、もし日本国民が共同演習の何たるかを知り、これまでの沈黙に代わって異議を唱えだせば、戦略全体が崩壊する恐れがあるからだ。その意味で今回の演習は極東ソ連軍に対する「キーン・エッジ」であると共に、米軍自身に対する「鋭利な刃」でもある。

今ヨーロッパや南太平洋で、アメリカの戦略は同盟国の政府の支持すら急速に失いつつある。独りわが中曾根内閣のみが無限定な協力を惜しまないという恥べき政策を実行している。共同演習は私たちに向けられた「刃」でもある。この「刃」が結局誰を傷付けることになるのか。すべては私たちの選択と行動にかかるといふと言えるだろう。

(一九八六·一〇·一四記)



www.otto-hoek.com 反トマホーク 第8回全国会議

田米三軍統合実動演習中止を訴える緊急アピール

来月下旬、北海道を中心に、日米の陸・海・空合同の共同演習が行なわれようとしている。三軍が一体となつた実動演習はこれまでになかったものである。今回の演習は一九七八年の「日米防衛協力指針」の要請に基づく日米合同演習の総仕上げであり、日米の軍事的な関係がNATOのそれと同様なものになるという、極めて危険な段階へと踏みこむことを意味する。

「新海洋戦略」、「極東第二戦線論」など今年になつてレーガン政権の高官による極東での核戦争を示唆する言明が相次いでいる。そしてそれを裏打ちするかのように、去る八月二十四日、米海軍は三隻の核トマホーク艦を日本の港に同時入港させた。「指針」に明示されているようにトマホーク、F-16などの中距離核兵器の日本配備と日米共同演習は完全に軌を一にするものである。

我々は、極東での軍事的緊張を高め、核戦争につながる今回の合同演習に絶対反対である。それは単に憲法を蹂躪するだけでなく、日本国民、朝鮮、アジア、ソ連の人達の生存する権利すら否定する内容を持つものである。「剣を取るものは剣によつて滅ぶ」という。我々は我国の政府が歴史的な愚行を犯すことを黙認することは、決してできないのである。

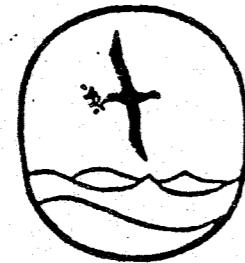
貴殿の責任において、直ちに今回の演習を中止せよ。そして、核戦争につながる一切の日米共同演習も中止するべきである。

【期間】 10月27日～11月1日（10月18日～26日）の陸の日米共同訓練と、19日～25日の陸での日米指揮所訓練がこれに合流する。  
【場所】 北海道大演習場（恵庭市）、本州太平洋側海空域。

- 日本側 (陸) 第11師団第18普通科連隊 (札幌) (海) 一個護衛隊群 (空) 一 個航空團
- 米側 (陸) 第25師団 (ハワイ) (海) 第7艦隊 (司令部横須賀) (空) 第5 空軍 (司令部横田) 第7空軍 (司令部韓

# 会計報告と未納金納入のお願い

● 未払いの未納金や  
未払い金はありますか  
早いお早め!!



## 反トマホーク第3次キャンペーン会計報告：

★収入	★支出
会費 886,500	事務所家賃 675,000
宣言カンパ 590,300	電話代 213,731
カンパ 298,247	電気代 13,089
バッジ・資料等売上 53,540	ガス代 9,653
合計 ￥1,828,587	文具類 171,700
	水道料金 6,400
	郵送代 571,175
	印刷費 308,000
	集会賛同費 12,000
	会場費 56,000
	雑費 50,630
合計 ￥2,087,378	

(85年10月1日～86年9月24日)

従って現段階では  
収入-支出 = -￥258,791 赤字

未収金の早期・確実な回収が必要です!!

☆未収金
維持団体・個人会費 348,000
参加団体・個人会費 68,000
通信会員会費 10,000
合計 ￥426,000

- 空から写真をとられることも防がなければならぬ。あるいは、敵対分子や反体制分子が無線を傍受するかもしれない。そこで、音声通信の周波数を変化させて傍受出来ないように入る装置を使用するよう手引書に定められている。
- 事故に際しても核の存在を否定も肯定もない米国の政策は不变である。実際当局は故意にウソの情報を流して破損した核兵器を積

- NUWAXというコード・ネームの核兵器事故を想定した訓練が国防省核兵器局の核兵器事故対策手引書に最近導入された。ここには、軍の事故にたいする考え方が凝縮されている。手引書によれば「事故現場および風下數マイルの地域で放射能汚染が起る可能性は極めて現実的である」
- 米は現場を持続的に管理するために、極めて厳しい構えをとっている。81年のNUWAX訓練では兵隊の一部がデモ隊に扮して保安のための阻止線を突破した。報告書によれば「このシミュレーションではデモ隊の一人が射殺された」



- 核兵器による大規模な事故はすでに何回も起じている。もっともよく知られているのはB52爆撃機の二度にわたる墜落事故であるが、いずれも局地的に深刻なブルトニウム汚染を引きこした。
- 米海軍は核兵器事故を海洋核せんそうと同じように考へていて、容易に隔離できること、コントロールも可能である、と。

- あらゆる危険にくわえて、事故による漏出や汚染という重大な結果がつきまとっている。たとえ事故の確率は低くとも、その結果は人口の密集した港湾都市にとって甚大なものになるだろう。
- NUWAXというコード・ネームの核兵器事故を想定した訓練が国防省核兵器局の核兵器事故対策手引書に最近導入された。ここには、軍の事故にたいする考え方が凝縮されている。手引書によれば「事故現場および風下數マイルの地域で放射能汚染が起る可能性は極めて現実的である」

- 事故による汚染は米国内での実験条件の下でさえあまりに困難な問題を抱えているが、これが海外での事故となるとなおさらだ。米国これに対するプランはただちに使用可能な通信衛星を捜しだし、無線通信装置を現場に運びこむことを要求している。この拠点はフィリピンの米海軍通信基地であると思われる。ここでは不慮の事故にそなえて可搬式の通信装置が待機している。
- 米軍は核兵器に関する機密を守りぬこうという方針である。したがって、破損した核兵器に近付くことが出来るのは「機密核兵器設計情報」を明かされている米軍人だけである。国内での事故ではより厳密に適用されるべきが論理的である。これは過去にも実例がある。
- 事故発生現場を米軍人以外立入り禁止にするという要求は、現地国にとつては一定期間その場所における主権を放棄しなければならないことを意味する。
- 外形や外観からも核兵器の機密は知ることができる。現場を近付いて見られる」とや上

## 核兵器事故

NUCLEAR ACCIDENTS

(抄訳)

L・ザースキー／P・ハイズ  
／W・バロー 著

CURRENT AFFAIR BULEETIN 86. 6

ノルウェーで発行されているNAN（北大西洋ネットワーク）のニュース・レター「ポート・ウォッチ（PORT WATCH）」No.5(86.8～9月号)に掲載された同名の論文の抄録から要點を紹介する。著者はいずれも研究所国外の安全な位置から米のノーチラス片断的になる現地の人々の守りのままで徹底して告発はそのつまづきをくらべて浮上がらせている。



● NUWAX訓練ではより現実性を高めるために核兵器のブルトニウムに擬して放射性のラジウム一二三を「帯にばらまいている。

# 各地

**[京都]** 日米三軍統合演習に反対して10月16、

18日に四条河原町でピラまさき。10日にはあいばの演習場へ反対行動も行なった。10月21日には「日米安保体制を打ち破ろう！10・21国際反戦デー京都集会」11月中旬には更に署名運動、抗議行動、あいばの演習反対集会等を計画。「トマホーク阻止京都連絡会（○七五一一二五五一一一六一 吉田方）」

**[愛知]** 11月15日、日米統合演習に反対して名古屋市内で学習会。あいばの演習時にあわせて同市内で抗議のピラまさきも予定。「愛知はんせんの会（○五一一一七六一一五一一八 川名文庫気付）」

**[埼玉]** 中曾根首相も参加する朝霞観閲式に抗議して「10・26つぶせ自衛隊朝霞観閲式集会・デモ」朝霞駅前に朝九時より集会、九時半デモ出発。浦和市民連合、戦争への道を許さない女たちの会・埼玉・埼玉反戦青年委員会の呼びかけ。

**[東京]** 反原発週間の連続行動。10月25日「昔、原発というものがあったという日をつくる東京集会」高木仁三郎、近藤和子の両氏に田中三彦氏（原子力技術者）を加えた講師陣で北海道・下北からもアピールが届けられる。東京労働福祉会館で六時間会。カンパ五百円。主催は実行委。10月26日、 Chernobyl 故事からちょうど六ヶ月目の反原子力の日には「10・26原発を止めよう！大行動」十二時より日比谷小音楽堂にて「STOP 原発 EDS」和太鼓、アトミックカフェ・バンドなど盛り沢山の歌と演奏。三時より銀座繁華街に向けて「STOP 原発フリー・デモ」反原発東京行動主催。「反核バシフィックセンター

五一二五五一一一六一 吉田方）」

リ事故からちょうど六ヶ月目の反原子力の日

に「10・26原発を止めよう！大行動」十二時より日比谷小音楽堂にて「STOP 原発 EDS」和太鼓、アトミックカフェ・バンドなど盛り沢山の歌と演奏。三時より銀座繁華街に向けて「STOP 原発フリー・デモ」反原発東京行動主催。「反核バシフィックセンター

一一一内線四二五富永氣付）」

**[横浜]** 「全国運動」と生活クラブ生協の主婦有志が原潜事故対策について県知事に申入れ「原潜入港拒否」「非核コード作り」「市民を含めた事故防災研究グループ設置」等を求めた。上瀬谷基地では「統合演習」をにらんだ基地監視。「ウドの会（○四五一三六三一

号で詳報）」

**[横浜]** 10月18、19日市民と労働運動が本格的に合流して開いた「ヨコスカ・ビース・フェスティバル86」は参加者三千人と大盛況。県と市も後援した画期的な取組みだった。次



発行／トマ喰い虫社

「トマ喰い虫」5号——300円  
●特集 海につながる、海でつながる  
対談（梅林宏道＋ネルソン・フォスター）  
／核実験の島（荒川俊児）／海洋汚染の  
行くえ（水口憲哉）／ニュージャージー  
寄港の意味（新倉裕史）●ずいひつ（三  
輪妙子）●私の主張（太田武二）●イン  
タビュー（ピーター・バラカン）●トマ  
喰い虫訪問（木風舎）●地域から●三宅  
島レポート（寺澤晴男）●トマホーク・  
データ●基地と海洋戦略（前田哲男）